

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	野外体験型フリースクール事業
資金分配団体名:	公益財団法人信頼資本財団
実行団体名:	認定NPO法人TSC
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	滋賀県
事業対象者:	高島市及び周辺地域の不登校児童生徒（小学生～高校生）

Version 3.2
日付: 2022年3月10日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>2021年10月に、スポーツ・アート・音楽などを学ぶ感性教育、キャンプや自然観察を通じた環境学習、農業体験や漁業体験など地域社会との交流などを通じて、子どもたちが生き生きと過ごすことができる自然体験型フリースクールを開校しました。新型コロナウイルス感染症により、以前から社会問題となっていた不登校児童生徒や、日々の学校生活にストレスを感じSOSを発している児童問題が深刻化する中、学校に行きたくないと感じた児童がいつでも気軽に通うことができる公園や、キャンプ場のような自然学校をフリースクールとして運営し、体験や交流を通じて持続可能な社会の実現に貢献できる子どもたちを育てることで、問題解決に貢献します。</p> <p>開催日：火～金曜日 週4日開催 時 間：9:00～15:00 人 数：生徒数6名（小学生4名、中学生2名） スタッフ数 常時2～3名 方 針：自分がやることを自ら計画し、主体性を育むことを大切にしております。 自然体験を通じて、「生きる・暮らす・遊ぶ」をテーマにした活動を行なっております。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>コロナ禍の影響を受け、不登校児童生徒数が増加しているという社会課題は、教育委員会において想定していたよりも重視されており、フリースクールが高島市に無いということの問題として捉えている背景がありました。高島市初となるフリースクールの存在は大変好意的に受け止められ、開校説明に訪問した行政や学校など関係各所において、連携していきたい旨の話を頂くなど、大変良いスタートを切ることができました。その分期待も大きく、どのような活動を行い、どうして子どもたちと触れ合っているのかという点について、吟味をされる立場であったことから、実績のあるフリースクールへ視察に行くなど、スタッフ教育の機会を重視して活動して参りました。</p> <p>開校当初は、不登校である子どもたちに配慮して、大規模な告知は行わず、口コミのみの告知を行い静かに開校しました。その姿勢を保護者の方から評価して頂き、信頼関係を築くことに繋がりました。今後は、経営的側面から持続可能な規模(小学生：20～30名、中学生20～30名 ※最小規模小中学生20名)へと成長させるべく、新年度の生徒募集については、ホームページ、SNS、パンフレットを用いて募集を行います。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	不登校	引きこもりとなっている児童が、定期的に外出し、自然と触れ合える健康的な生活を送れる状態。	参加者数	毎月1回以上通う児童数30名	週4回参加2名	学校に全く行けていなかった生徒が、毎日フリースクールに通える状態となりました。開校3ヶ月で、地元中学校に通える状態となった生徒が1名誕生しました。
子ども・学生	不登校	マスクや消毒のストレスにより、心にSOSを出している生徒が、週に1～2回程度フリースクールに通うことで、心のバランスを保つことができている状態。	参加者数	毎月1回以上通う児童数30名	週2回参加2名 週1回参加2名 体験7組 見学4組	母子家庭において、母親の仕事中は自宅で1人で過ごしていた小学1年生が、週2回通える状態となりました。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	高島市および周辺地域において、ストレスによって不登校や引きこもりとなっている30名の児童が、フリースクールに通うことによって健康的な生活を取り戻している状態を目指します。
考察等	設立当初は、不登校という特殊な事情の子どもたちに対しての告知に慎重な姿勢を取り、主に口コミのみでの告知を行いました。徐々に関連コミュニティに広がり、毎週体験や見学者が集まり、またスタッフとして働きたいという問い合わせも増え、高島市初のフリースクール開校の話題が波及していきました。開校より4ヶ月を経て、スタッフの経験値も少しずつ高まり、参加する子どもたち同士のコミュニケーションも深まってきたタイミングで、ホームページ、SNSでの情報発信を行い、春に向けての新入学生募集を開始しました。各小中学校との連携を図る中で、校長や担任の先生とのコミュニケーションも取れてきたことで、今後はアウトリーチ活動の実施も踏まえて検討しております。

V. 活動

活動	進捗	概要
購入済みの土地に、トイレ、炊事場などを新設し、自然体験ができる公園型キャンパスを新設する工事	計画通り	トイレ、炊事場、事務所コンテナ、倉庫コンテナを設置し、各季節に応じた自然体験を行うためのベースが整備できました。今後は、人数の増加に合わせて建物を増設することが必要になります。
不登校児童生徒や子どもの自殺が増加する夏休み明けの本格開校を目指し、8月にプレオープン（短期イベント）。平日の運営	計画通り	夏休み期間を活用し、不登校で無い生徒も含めてプレとしてのフリースクールを開校しました。スタッフ研修の意味合いも踏まえており、実際の動きの確認や、反省などを行い、本開校に備えました。
本格開校。平日の運営	計画通り	10月5日より、火曜～金曜日までの週4日で開校しました。
芸術家や環境活動家の専門講師を招いての講習（月に2回程度）	計画通り	1月末時点の実施回数 陶芸2回、書初め1回、大工(DIY)5回、ギター2回、レコーディング1回 プロの技に触れ、初めての体験を通じての感性教育を行いました。
公園内、地域内へ道具などを運搬する車両の購入（リース）	ほぼ計画通り	2月中に車両購入予定。
野外活動用備品の購入	計画通り	テント、テーブル、椅子などのキャンプ道具など、野外活動に必要な一式を購入しました。
スタッフによるキャンパス内の整備	計画通り	草刈り、側溝の清掃など、工事期間の前後に必要な施設整備を行いました。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	3年前にフリースクールを開校すべく動いていた知人より、行政側は冷たい対応だったため開校を断念したという話を聞いておりました。しかし、この度、TSCフリースクールを開校するにあたり、高島市教育委員会、各学校に向けて説明に回っていた際、想像以上に好意的に受け入れて頂き、連携を図っていく旨を話し合うことができました。背景として、2016年公布の教育機会の確保法が少しずつ浸透してきたことに加え、少子化に逆行して不登校児童生徒数が増え、コロナ禍において更に加速している社会課題を踏まえ、行政としてもこの問題を真剣に捉えていることが挙げられます。 また、この問題がメディアで取り上げられる機会も増え、地元経済界の関心も高くなっており、ライオンズクラブ、中小企業家同友会高島ブロックより講演の依頼が来るなど、町全体として共通理解を図れる良い機会に恵まれました。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	不登校児童生徒の中で、公的サービスに辿り着いている割合が10%、民間サービスでは3%、何のケアも受けられていない場合が87%と、まだまだサービスの浸透が図れていないことが大きな社会課題です。また、小中学生の不登校児童生徒の割合は約2%であり、高島市においては約70名に相当します。しかし、そこに含まれていない日常的な放課後登校(遅刻)や早退としてカウントされている子どもたちも多く、全てを合わせると100名を超える「学校に行けない・行きづらい」子どもたちがいます。 そんな中、TSCフリースクールの第一号入学者となった中学1年生は、週4日通い始めて2ヶ月半が経った12月中旬より、地元の中学校に登校するようになりました。無気力感や、自己肯定感の低さなどを強く感じる生徒でしたが、自然体験を通じて徐々に明るくなり、意欲的に行動できるようになるなど変化が見られ、保護者の方にも大変喜んで頂きました。今後は、まだ出会えていない子どもたちに対し、広報やアウトリーチ活動などを通じて、より多く私たちの活動に触れて頂くことを目指します。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
高島市教育委員会事務局 教育指導部 学校教育課	高島市内の不登校児童生徒数などの情報共有、連携を測っていく旨の確認
高島市立今津中学校	今津中学校に通っている生徒がTSCフリースクールに通う場合、出席と認める旨の確認。
高島市立今津東小学校	校長先生と定期的なコミュニケーションを図り、フリースクールの視察も実施済み。今後、出席と認めてもらう方向で協議。
特定非営利活動法人志塾フリースクール	約20年の実績を持つフリースクールと情報共有を図り、ノウハウの提供などを受ける。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	15,388,716	15,660,076	101.8%
	管理的経費	1,111,284	1,112,005	100.1%
合計		16,500,000	16,772,081	101.6%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	2021年11月16日 14:30~14:50「さらピン!キョウト」KBSラジオ出演 2021年11月27日 「フリースクール高島で開校」京都新聞滋賀版掲載
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	2021年9月1日 「TSCフリースクール要綱」入学説明のために制作 100部 2022年1月10日 「TSCフリースクールロゴ」フリースクールのイメージ訴求のため 2022年2月末日完成予定 「TSCフリースクールホームページ」 活動の情報発信、入学者募集のため
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	2021年9月1日 「TSCフリースクール要綱」シンボルマーク掲載 2021年12月 トイレ棟、事務所棟、倉庫にシンボルマークステッカー掲示 2022年2月末日 「TSCフリースクールホームページ」シンボルマーク掲載予定
4.報告書等	2022年3月 別紙作成済み

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	

②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3. 関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4. コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5. ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	団体の監事による監査を実施し、監査報告書の提出を受けた
7. 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8. 内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	

XII. その他

自由記述